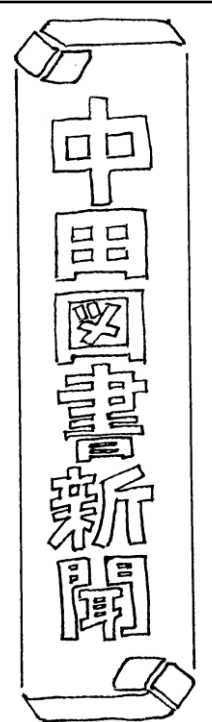


BOOKSなかなだ 掛尾本店・コミックラボ 富山市掛尾町180-1 TEL 076-492-1192



【主な記事】
・いつか見た絵
・ロウソクは科学の始まり？
・おもしろく生きるコツ

いつか見た絵

敬愛する和田誠さんが亡くなった。本紙五十二号で「和田誠と日本のイラストレーション」展のことを探り上げたのが二年前。その記事の結びが「末永くお元気で」だっただけに残念だ。

和田さんの絵を初めて見たのはいつだろう。本の表紙絵だったことは間違いがないが、どうしても思い出せない。それくらい身近に表紙や装丁を担当された本がたくさんあって（昔集めようとしたりしたことがあった）、挿画集を作った下さ（、知らない間にファンになったことじゃな）と思

限ったことじゃないと思

う。本当に皆から愛されたイラストレーターだった。

和田さんを見たことが一度だけある。金沢21世紀美術館で行われた「映画とジャズ」と題したトークショーで、ピアニストの佐山雅弘さんと交えての楽しいひと時。和田さんの映画と音楽の知識はやっぱり圧倒的で、話に出てきた曲を

佐山さんがさらりと弾いてくられると、夢のようなたさん故人となつてしまつたが、それはまた別の話。多才な和田さんのお仕事から何かひとつを選ぶのは難しいが、個人的に思入があるのは『いつか聞いた歌』*。和田さんが好きになつたスタンダードナンバーについて思いつくままに書き綴つた一冊だ。「Beethoven's Song-Subtle」に始まり「The Song-Subtle」で終わるという洒落た構成。スタンダードといつても当時は流行歌だったわけでも、ミュージカルや映画のために作られた曲となれば、和田さんの独壇場だ。勿論イラストも素敵。歌は終わつてもメロディは残る。和田さんは亡くなつてしまつたけれど作品は残る。いつまでも。◎

*現在文庫・増補改訂版とも品切れだが強く復刊を希望したい。なおCDで「スタンダード・ラブ・ソングス」「ソング・アンド・ダンス」「ブロードウェイ・アン・ド・ハリウッド」の三集まで発売されている（ソニーミュージック）。

掛尾本店では和田誠追悼コーナーを設けています。

警備員の風景



和田誠

六十一年以上にわたる画業を一望できる『定本和田誠時間旅行』がおすすすめです。

七十歳を超えてから金銭的事情により警備員の仕事に就いた男性が綴る『交通誘導員ヨレヨレ日記』がひっそりと重版を重ねています。

何か感動的な話があるわけでもなく、だからと言つて強烈に悲惨な体験が登場するわけでもありません。淡々と描かれるのは、簡単そうで忍耐と技術を求められる仕事内容、日々違う派遣先での人間関係の苦労、楽な現場もいろいろ困難な任務を全うしたときに得られる充実感などなど。それらに静かな共感を得られ、知的好奇心が少しづつ満たされます。また、良識を感じる人物がほとんど登場せず、警備の現場のリアルな人間模様が伝わってきます。読み終えたときには、街で見かけない日はない警備員たちの仕事ぶりや人間関係に興味がいってくることでしよう。

この本を手取る動機

十兵衛・惟任・日向守

通常、ゲームというものはしないのだが『信長の野望』の新作が出た時だけは『ゲーム』になる。へ利家とまつを西軍の大將にして

は人それぞれなのでしょ

うが、私の理由は、きちんとあります。それは、二年と前のある場所で、殺気立つた大勢の観光客に「踊り手はいつ来るのか!？」と何度も怒号を浴びながら、堂々と場を仕切っていた、七十歳がらみの男性警備員がとにかくカツコよかつた記憶があるからです。その現場とは、九月初めの夜十時過ぎ、八尾おわら風の盆真つ最中の諏訪町本通り。風情ある人気町名所で、踊り手が時に中断しながらゆっくり坂を下りてくるのを数時間苛立ちながら待つ観光客たち。多くが年配者の観光客とトラブルにならない客と毅然と接するのは容易でありません。今から思えば警備会社が頼りになりそうな彼に託した、祭り期間中の最難関の現場だったのでしょう。◎

縁の下の力持ちであるそんな警備員たちの風景を紹介する本書は、充分楽しめる一冊です。



明智光秀

の関ヶ原の戦いもあれば、へ軍師官兵衛が九州からら攻め上り東軍と戦うからと思えば、へ真田丸にて寡兵を以て家康を討ち取ることもできよう。

『信長の野望』は置いて、来年の大河ドラマはへ麒麟がくるで明智光秀が主人公。最新の評伝『明智光秀伝』の著者・藤田達生氏は『本能寺の変』(講談社学術文庫)を書き一本能寺の変「研究の第一人者」として知られる。

秋田書店のコミック『信長を殺した男』が売れてい

る。何かに、本能寺の変の原

因は何か、黒幕がいるので

はないかという話が好きな

人が多いようだ。本書にも

本能寺の変の真因に對する見解が表明されており、

光秀の評伝という体裁を

とりながら、織田政権の概

説書ともいえる。光秀は単

なる反逆者と思つてい

る人も多いかもしれないが、

本書を読めばそんなイ

メージも変わるに違いない。

光秀に限らず、戦国時代

が舞台の作品は毎回視聴

している。きっと人生に必

要なことは『信長の野望』

が教えてくれるからだろ

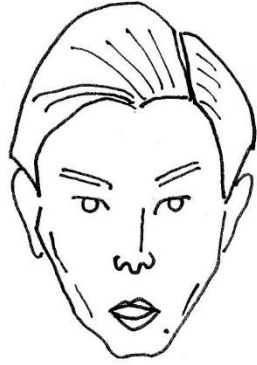
【書誌情報】『いつか聞いた歌』(和田誠・文春文庫 466円【重版未定】)『定本和田誠時間旅行』(和田誠・玄光社 4,000円)『いつか聞いた歌～スタンダード・ラブ・ソングス』(SICP-30012 2,700円)『いつか聞いた歌 2～SONG & DANCE』(SICP-30408 2,700円)『いつか聞いた歌 3 ブロードウェイ・アンド・ハリウッド』(SICP-31059 2,700円)『交通誘導員ヨレヨレ日記』(柏耕一・三五館シンシャ 1,300円)、『明智光秀伝』(藤田達生・小学館 1,300円) ※ 価格は本体価格です。

おもしろく

生きるコツ

お笑い芸人「ハライチ」の岩井勇氣と聞くと、三年前なら「ああ、澤部じゃないほうね。」と言われたと思う。ところが最近じわじわと深夜バラエティやラジオで人気を獲得し、九月に発売したエッセイ集『僕の人生には事件が起きない』も重版を重ねている。

ら、漫才中三分間沈黙する岩井と、交信を信じて待つ澤部のネタも最高なので機会があれば観てほしい。「王道漫才では生き残れない」と割り切った上で王道に勝ち得る新しい漫才を作り上げてくるハライチはどのようにして生まれのか。「僕と澤部」という回を読んでいただければその答えが垣間見える。



岩井勇氣

講談界の救世主は

かなり猫背です

来年二月に真打昇進、そして大名跡「六代目神田伯山」襲名を控える講談師、神田松之丞。生い立ちから講談との出会い、芸道論までを聞いたインタビュー集『絶滅危惧職、講

談師を生きる』が、新たに章を加えて文庫になった。私が初めて松之丞を知ったのは、「BSラジオの」問はず語りの松之丞「だった。このご時世に、こんなにも人の悪口ばかり喋っているのかと笑いつつも、結局この1年で〇〇を購入して、高座を見に行くとまでにドハマリしてしまった。

松之丞講談の魅力は何といても会話のテンポだ。登場人物の躍動感、場の臨場感に圧倒され、あつという間に引き込まれる。「中村仲蔵」を聞いたとき、松之丞は完全に仲蔵そのものであり、孤独と葛藤の表現に息を呑んだ。松之丞の芸の根底にあるのは「怒り」である。父親との不幸な別れも、常にイライラしていた青春時代も、落ちこぼれた前座時代も全てを古典講談にぶつけてストイックに芸を磨く。現在の人気ぶりに納得できる一冊である。



神田松之丞

隙あらば猫、の集大成

定期的にお目当ては九月行く事を楽しみにしている。今回のお目当ては九月下旬より十一月まで開催していた「町田尚子原画展」。作家京極夏彦著作の『ざしきわらし』と今年人気の絵本『なまえのないねこ』の二冊の原画展だ。絵本好きにも猫好きにも妖怪好きにもたまらないライオンナップであった。著者の町田尚子さんは無類の愛猫家らしく、どの絵本にも隙あれば猫を描いている。そんな著者の新作にして猫愛の結集とも言えるのが本作『ねこことねこ』だ。

近しい人ほど

感情は……

怒ったり、許せなかったりという感情は、若かりし頃のもの。しかし、その感情はなかなか塗り替えられないまま、日常を積み重ね、過去から現在へと断捨離できずに持ち続けてしまっている。イギリス出身のハーブ研究家ベニシアさんと写真家の夫、正(ただし)さんの京都・大原のご自宅の、綺麗なお庭の写真や暮らしの様子を中心にそれぞれの半生もまとめたこの一冊『ベニシアと正、人生の秋に』。

この物語は

フィクションである。

……が、

十年後においては

定かではない。

本作『ベーシックインカム』は、東大卒のインテリ作家、井上真偽の新刊。AI、遺伝子操作、VR、人間強化、ベーシックインカムと、近未来には現実のものとなりうる新技術を集めたという。短編集となつて、推理小説のトリックはもはや出尽くしたといわれて久しいが、今作では未だの新技术をテーマとする。この創作に成功して、加えて、一つひとつの短編がSF短編として、非常によくできていて、来たるべき近未来の姿を、怖気を感じるほどリアルに描き出している。しかしながら表紙にコメントを寄せている大森望の御眼鏡にはかなわなかつたらしく、「ミステリだ」と評されてしまった。彼は本当に気に入った作品は「SFだ」と評するのだ。そうはいっても本作が傑作であることは揺るがない。星新一やドラえもんを想起させる、非日常のアイテムが一つ日常に放り込まれたときに何が始まるのか？というSFの起

基本中の基本である展開は、短編であることもあり結末までページを繰る手篇、一気読み必至である。古くはアイザック・アシモフにまで遡るSF+ミステリという試みは古典中の古典ではあるが、閉塞した現代ミステリの殻を打ち破る古くて新しい手法となりうるのかもしれない。ところであるが、学部がどなかであつたのかは明かされていない。筆者はこれまでこの風から数学科だと思ひこんでいたのだが、今作を讀んで経済学部かもしれないと考えを改めた。そういえば性別も不明である。男性だと思ひこんでいたが、果たしてどうなのだろうか？

ロウソクは科学の始まり？

今年のノーベル化学賞受賞の吉野彰氏が、研究者の道に入るきっかけとして紹介した話題になった。『ファラデー著『ロウソクの科学』』3年前のノーベル生理学・医学賞受賞の大隈良典氏に面紹介されるなど、科学の面白さを伝える古典的名著です。ファラデーが子どもむけに行つた講演を収録したもので、現在、岩波文庫から出版されて

います。しかし『ロウソクの科学』、挫折した人が多数おられるようで……。『ロウソクの科学』世界一の先生が教える超おもしろい理科です。こちらは、理科が好きではない小学五年生の双子に、謎の科学者・原出先生がファラデーの『ロウソクの科学』をタネに科学の話をする、というストーリー。小学生にもわかりやすい平易な言葉と多めのイラストで、ファラデーが行つた実験と、実験を通してファラデーが伝えたかった科学の楽しさを教えてくれます。児童文庫と侮るなかれ。読みやすさと原典のエッセンスがきちんと両立されている、大人でも読み応えある内容です。



Michael Faraday

怪獣たちのいるところ

最初に『怪獣生物学入門』というタイトルを見た時、生物学に特化した『空想科学読本』のような内容かと想像したが、趣が異なる内容だった。本書の半分は、

著者の怪獣に対する「愛」や「熱意」で構成されている。仮に怪獣と呼ばれる生物が、この世に存在しているならば、種として存在できるよば、繁殖しているならば、繁殖をしていくわけである。世に代表される怪獣たちが、何から進化し、どこで繁殖しているのか。本書では、怪獣たちの形態からその謎に迫つていく。怪獣を怪獣たらしめていくのは、何もその大きさをや形態というわけではなく、象徴的な怪獣には、男性像的なイメージや、社会的な風刺が盛り込まれていく。放射能で突然変異したゴジラ、人為的に作られた倒すために作られた平成ガメラにはその特徴が顕著だ。生物としての怪獣。象徴としての怪獣。どちらが不足しても、日本の怪獣像は成り立たない。昨今のハリウッド映画に登場する怪獣は、その点が欠落している。現在では、古くから怪獣の生息地として語られる地球空洞説は否定され、一方地球恐竜は絶滅してないという設定からして環境や生物史から隔絶されてしまった。しかし今でも、地球のどこかに、古代の生物

が古代の姿のまま暮らすユーロピアがあることを願わずにはいられない。それはおそらく、生物と象徴の2つの姿を併せ持つ、日本の怪獣像に触れて育ってきたからなのだろう。

いや、ホントのところは好きですよ

世界にはなくなりそうない「小さな」言語がたくさんあり、それが消えてしまいう前に記録しようとしている人がいる。フィールド言語学者である。貴重な言語や文字を持たない言語を調査するため、世界中を飛び回りインタビューする活動的な人びと。：：：の中にどうやら現地嫌いを自称する方がいるようだ。時にはインタビュー相手は予定をキャンセルされたり、虫や不運に襲われながらも、現地に通う。帯の「はやく日本に帰りたい。」が切実に聞こえてくるようだ。過酷な現地の生活環境に耐え、地道な調査を積み重ねた研究の一部が本書『現地嫌いなフィールド言語学者、かく語りき。』に引き。『現地嫌いなフィールド言語学者、かく語りき。』(吉岡乾・創元社 1,800円)

【書誌情報】『ベーシックインカム』(井上真偽・集英社 1,400円)、『ロウソクの科学』(マイケル・ファラデー 平野累次 上地優歩・角川つばさ文庫 680円)、『怪獣生物学入門』(倉谷滋・集英社インターナショナル新書 880円)、『現地嫌いなフィールド言語学者、かく語りき。』(吉岡乾・創元社 1,800円)

※ 価格は本体価格です。

インターネット黎明期に

生まれた作品を今再び

「小説家になろう」をはじめとした小説投稿サイトに掲載された作品が一般出版社から書籍や文庫として発行され、コミカライズやアニメ化と



カケオくん

22

細野晴臣デビュー50周年記念展「細野観光1969-2019」に行ってきました。



見どころはいろいろあったが、細野さんの愛機の展示は鳥肌ものであった。これがあの名演奏が生み出されたのか。



細野さんの本棚の再現も楽しい。マンガ家を目指していただけあってコミックが充実している。



グッズの一番人気は手ぬぐいだ。売りが切れていた。観光のお土産にしたかったのに残念なカケオくんであった。



錬金術始めました。

異世界転生もチートも無いけど

から新しい作品群が発売になりまし「スレ発ラノベ」と題し四つの作品がMF文庫とKADOKAWAのAWAブックスから発行されています。これら

映画やゲーム、アニメに登場するような、架空の物質で作られたアイテムの数々。ファンタジー好きであれば心が躍りますよね。

あるある！ 耳が痛い！ 何とかしたい！

『ズボラ習慣をリセットしたらやる気な自分が戻ってきました』は、自分の体験から人生の苦手を克服するコミックエッセイを描くわたなべぽんさんの新刊です。

【編者あとがき】 2019年は天皇陛下のご即位やラグビーワールドカップ、当店としても掛尾本店やファボーレ店の改装オープンなど、話題の多い年でした。2020年もいい年になりますように。

【お知らせ】 10/19、ファボーレ店リニューアルオープン！ twitter やってます。 掛尾本店 @nakadahonten コミックラボ @tomi_labo ファボーレ店 @nakadafavore 魚津店 @nakadauozu イオンかほく店 @nakadakahoku

【書誌情報】『細野観光1969-2019』(井出幸亮・朝日新聞出版 三一八二円)